

聖書箇所：ルカ18：1～17

タイトル：「祈るときには…」

テーマ：祈りに関しての二つのたとえ話と、子供たちのあり方をおして、イエスが教えてくださったことは何か。祈ることは信仰そのものであること、すなわち神に全き信頼を寄せ、自分を神の御手にすっぱり委ねることだとイエスは言われるのです。

はじめに（文脈の確認）

場所：エルサレムに上られる途中、サマリヤとガリラヤの境を通られた（17：11）

出来事：＊10人のツアラアト患者のいやし（17：12～19）

＊パリサイ人たちの質問——神の国はいつ来るのか（17：20～21）

＊キリストの再臨について（17：22～37）

再臨について語られたあと、祈りに関する第一の譬え、すなわち不正な裁判官とやもめの譬えを語っておられるので、これが再臨と関連した祈りの譬えであることがわかります。

今日の聖書箇所から、イエス様は祈りの姿勢、つまり祈るとき心のあり方をどのように教えて下さっているかを見てください。

本論：

1. 不正な裁判官とやもめのたとえ（1～8節）

①あきらめなかったやもめ

②誤解してはいけないこと

③イエスがこのたとえをおして語られた重要なこと

2. パリサイ人と取税人の祈りのたとえ（9～14）

①パリサイ人の祈り

②取税人の祈り

③神は取税人を義とされた

④イエスがこのたとえで示された重要なこと

3. 子どもたちについて（15～17）

「神の国はこのような者たちのものです」

①子供が純粹無垢だと言っておられるのではない

②イエスが「子どものように」と言われるとき、何をポイントとしておられるか

結論、適用：

神を信じ切った子どもの祈りの例